

すてっぴ

練馬区立男女共同参画センターえーる 図書・資料室

NO.38 平成24年(2012年)6月

〒177-0041 練馬区石神井町 8-1-10

☎ 03 (3996) 9005 (代表)

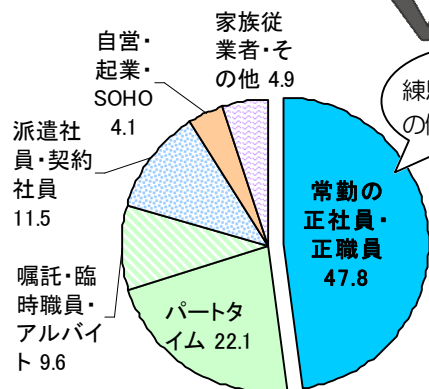
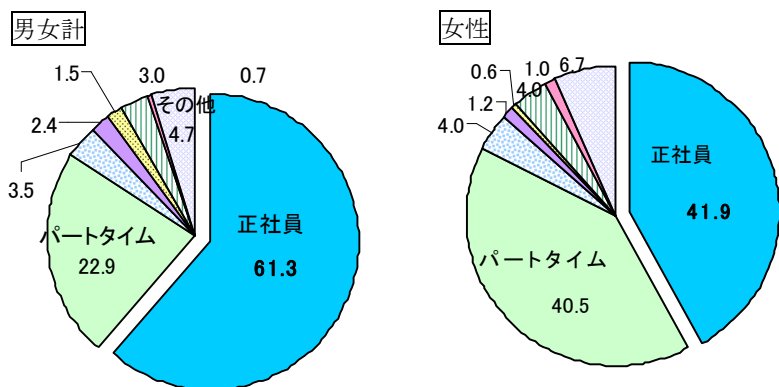
<http://www.city.nerima.tokyo.jp/kusei/keihatsu/jinkendanjo/sankakucenter/index.html>

いろいろな働きかた

～あなたの場合は？～



◆ 就業形態別就労状況



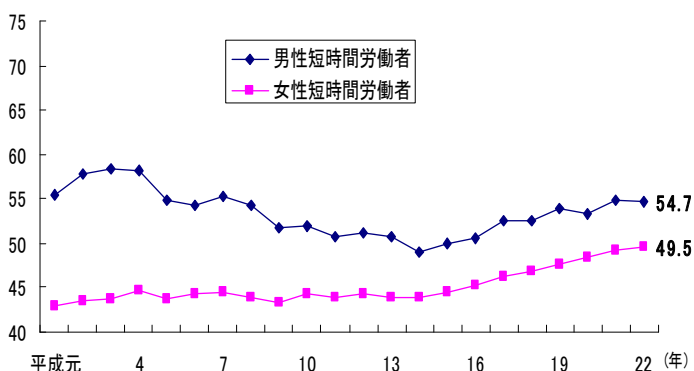
(平成21年度練馬区女性の労働実態調査より)

■ 正社員 ■ パートタイム労働者 □ 契約社員 ■ 嘱託社員 ■ 出向社員 □ 派遣労働者 ■ 臨時的雇用者 □ その他

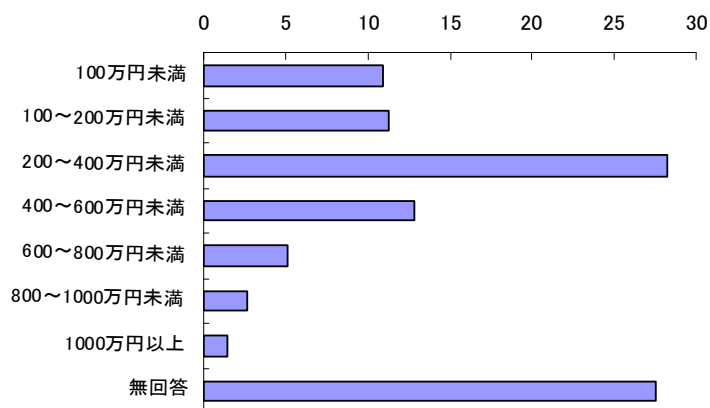
厚生労働省の平成22年「就業形態の多様化に関する総合実態調査」によると、民間企業で働く非正社員の割合は38.7%と過去最高で、女性に限ってはほぼ6割が非正社員です。

◆ 労働者の1時間あたり平均所定給与格差

(男性一般労働者=100)

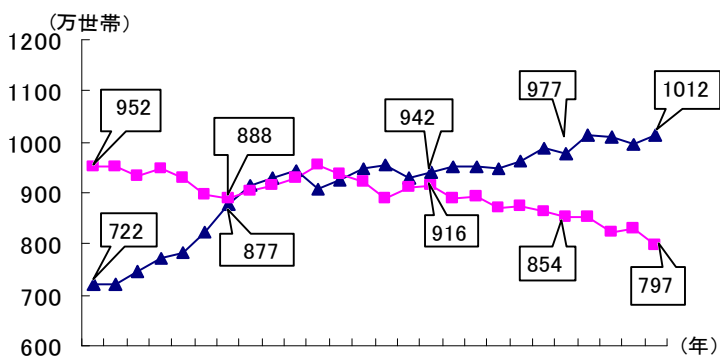


◆ 練馬区女性 就労による年収



◆ 共働き等世帯数の推移

▲ 雇用者の共働き世帯 ■ 男性雇用者と無業の妻からなる世帯



育児休業取得率 男性が過去最高の2.63%

厚生労働省平成23年度雇用均等基本調査より

改正育児・介護休業法が全面施行

平成24年7月1日より、これまで適用が猶予されていた以下の制度が従業員100人以下の事業主にも適用になります。

- ① 短時間勤務制度 (所定労働時間の短縮措置)
- ② 所定外労働の制限
- ③ 介護休暇

図書紹介

平成24年度男女共同参画週間(6月23日～29日)のキャッチフレーズは、

「あなたがいる わたしがいる 未来がある」。

男女共同参画ってよく分からないな、と感じていたら、ちょっと読んでみませんか？
男女共同参画社会は、男女が性別にかかわりなく、多様な生き方を選択できる社会です。



よくわかる女性と福祉

森田明美編著
ミネルヴァ書房 2011

就労、妊娠・出産・子育て、介護等が女性にのしかかり、男女平等を実現させない社会が、女性たちを生きにくくさせている。必要な人が必要な制度を利用できるように、制度の有効な実施方法を考える必要があるという。



女ざらい

上野千鶴子著
紀伊国屋書店 2010

日本社会にいまなお潜むミソジニーを、社会学者である著者が様々な側面から分析。ミソジニーとは、男にとっては「女性蔑視」、女にとっては「自己嫌悪」。男の「女ざらい」と女の「生きづらさ」を解剖する！



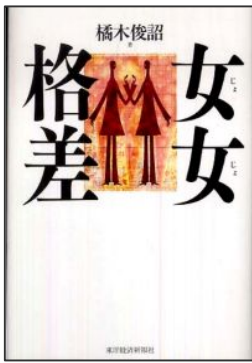
女たちが動く

みやぎの女性支援を記録する会編著
生活思想社 2012

宮城の被災した女性たちが、同じく被災した女性たちの支援に取り組んだ記録である。女性による支援で生み出された力とは何か、今後の課題、新たなまちづくりの展望が示されている。

新着図書

分類	書名	著者名	発行所
281	女の旅	山本志乃	中央公論新社
289ア	新ビルマからの手紙	アウンサンスーチー	毎日新聞社
289ヤ	山川菊栄と過ごして	岡部雅子	ドメス出版
361	喪男の社会学入門	カラスヤサトシ、千田有紀	講談社
367.1	メディアとジェンダー	国広陽子、東京女子大学女性学研究所	勁草書房
367.2	学んで活かそう女性の権利	国際女性の地位協会	尚学社
367.21	女ともだち	木村榮	フェミックス
367.21	女たちが動く	みやぎの女性支援を記録する会	生活思想社
369	貧困待ったなし！	自立生活サポートセンター・もやい	岩波書店
495	不妊を語る	白井千晶	海鳴社
599	パパ1年生	安藤哲也、ファザーリング・ジャパン	かんき出版
720	名画が愛した女性たち	木島俊介	集英社
780	進化する強さ	クルム伊達公子	ポプラ社
789	柔の恩人	小倉孝保	小学館
914オ	積極的その日暮らし	落合恵子	朝日新聞出版
914ム	無名の女たち	向井万起男	講談社
916オ	ナツコ 沖縄密貿易の女王	奥野修司	文芸春秋
みず	母の遺産	水村美苗	中央公論新社



女女格差

橋本俊詔著
東洋経済新報社 2008

低学歴と高学歴、結婚と非婚、正社員とパート、美人と不美人…。そこにどれほどの、どんな差があるのか？その差は不公平なのか合理的なのか？格差問題の第一人者が、女性の人生での様々な格差を検証、分析する。



お笑いジェンダー論

瀬地山角著
勁草書房 2001

著者がジェンダー、セクシュアリティ、男性差別、子育て等について楽しく縦横無人に語る。女と男の「社会的性差」をめぐる、身近なはっとする例を引いて性別による抑圧や問題性を突く。



男性の「生き方」再考

中村彰著
世界思想社 2005

仕事、地域、家庭、趣味…多様な暮らしを欲張りに生きること、メンズリブを通じた自分の姿が見えてくる。男性、女性双方に心地よい関係をつくるにはどうしたらよいのか、男性側に焦点をあて、考えてみる。



日本の女性政策

坂東真理子著
ミネルヴァ書房 2009

日本型福祉社会を担ってきた戦後家族(夫が稼ぎ、妻が家事・育児・介護などを担う核家族)が、すでに機能しなくなっているのに十分な対応はとられてこなかった。少子化時代における今後の諸政策の方向性を提示。



時代を拓いた女たち

しみず しきん
清水 紫琴

明治元年(1868年)～昭和8年(1933年)

『我が愛する姉妹らよ、
何ぞ忍んで、沈々黙々たる事やある』

自由民権運動時代に活躍した女権論者、小説家。本名豊子。明治元年、岡山県備前で高級官吏清水貞幹の三女として生まれる。後に京都に移り、京都府立高等女学校を群を抜いた成績で卒業。しかし明治初期、女性に生まれたことはすでに逆境であり、高等女学校より上の進学は許されず、14歳で学業を終えた娘を待ち受けるのは縁談であった。それまで父の庇護のもとで勉学に励み、その続きとしての向学心を遮られた時、紫琴はひたすら自己研鑽の道を選んだ。写本に励み縁談を断り続けていたが、ついに18歳で父の命に従い弁護士と結婚。この結婚により民権家と交わり、影響を受けるようになる。しかし夫に隠し妻が居ることが発覚し、自ら離婚を申し出た。離婚後「一夫一婦建白書」を元老院に提出するなどの政治活動に参加。明治23年自立のため上京し、「女学雑誌」の記者となり、明治女学校の教壇にも立つ。明治女学校の校長は廃娼運動で有名な巖本善治で「女学雑誌」も主宰。入社半年で主筆・編集責任者に抜擢される。

「泣いて愛する姉妹に告ぐ」で、女子の政治集会参加の自由を訴え、また「女文学者何ぞ出ることの遅きや」では、若い女性の結婚幻想を打ち砕くなど人権思想に立脚した評論活動を展開した。翌年、女性にとって結婚とは何かを問う小説「こわれ指環」を発表し、文壇の注目を集める。当時はタブーとして隠した離婚を壊れた指輪に象徴させ、それを自立の記念だととらえた日本最初のフェミニスト小説。この間、民権運動の指導者大井憲太郎と出会い、婚姻外で出産し長兄の養子とした。しかし、同郷の親友で「東洋のジャンヌダルク」とよばれた福田英子も婚姻外で大井の子を出産していたことが判明し、最初の結婚相手同様、革命家の偽善と限界を身をもって知ることとなる。福田英子との友情を失い、健康も害するが、明治25年長兄を介して知り合った、農科大学助教授古在由直と結婚。古在は挫折によって育まれた紫琴の強い意思と深い人間性に惹かれ「貴嬢を敬す、貴嬢を愛す」と繰り返し恋文で求愛した。彼は女性を人間として認め、友情が成立することを示している。後に東京帝大総長となる。結婚後も執筆を続けるが、明治32年「移民学園」を最後に筆を折った。藤村の「破戒」創作に影響を与えた作品である。4男1女をもうけたが、2児は夭折。後半生は家庭に入り夫の学究生活を支えていたが、69歳で生涯を閉じるまで夫婦対等の関係を崩さなかったと、子息由重(マルクス主義哲学者)は述べている。

参考図書：「泣いて愛する姉妹に告ぐ」「明治快女伝」「近代女流作家の肖像」

にゅーすBOX

子どもの数、31年連続減少

総務省の発表によると、4月1日現在の15歳未満の子どもの推計人口は1665万人(男子852万人、女子812万人)で、前年より12万人減。昭和57年以降、31年連続で減少しており、少子化の進行に歯止めがかからない。総人口に占める子どもの割合は13.0%で、米国19.8%、中国16.5%、ドイツ13.4%と諸外国と比べても最低の水準となった。

共働き意識 男女にズレ

内閣府の男女共同参画に関する意識調査の結果が公表された。「結婚後、妻にはできるだけ稼いでもらいたい」とした男性は、18.3%だったのに対して、「結婚したら自分もできるだけ稼ぎたい」と答えた女性は46.9%に上り、男女間の意識のズレが明らかになった。「(男性は)結婚したら家族のために仕事を継続しなければいけない」との質問では、男性の77.0%、女性の80.2%が「そう思う」と回答。夫が働くことについては男女とも当然視する傾向が強いことがわかった。

男性の育休 過去最高

厚生労働省の平成23年度雇用均等基本調査によると、男性の育児休業取得率が前年度調査より1.25ポイント上昇した2.63%となり、過去最高となった。女性の取得率は4.1ポイント上がった87.8%。

また東京都産業労働局の調査では、男性の取得率は1.8%、女性は94.2%と男女差が際立っている。

性暴力被害 24時間電話相談受付

DVなどの問題に取り組んできた女性たちが「性暴力救援センター・東京」を結成し、6月から24時間の電話相談を受け付けている。性暴力にあった女性と子どもを被害直後から支え、早期の医療ケアに結び付けていく。性被害の場合、早く産婦人科に行き適切な処置をうけられれば、妊娠を防げる可能性が高くなり、心身の回復にもつながりやすいとされている。電話番号は03(5607)0799。電話相談・面接ともに無料。

各省予算に「女性枠」

野田政権は「経済再生の不可欠な課題」として、各省予算に「女性枠」を設け、女性の活躍を支援する方針を固めた。女性の視点を生かしたビジネスの支援、仕事と育児の両立に役立つ対策が中心となる。

練馬区で「漫画ルーム」

練馬区桜台(練馬駅徒歩4分)の、赤ちゃんがいる母親や妊婦たちだけで漫画を楽しめる「漫画ルームよんこま」がロコミで利用が増え、ママたちのくつろぎの空間になっている。内閣府地域社会雇用創造事業奨励賞に選ばれ、今年1月本格オープンした。営業は平日午前10時半～午後3時半 1時間500円 定員は親子10組。

配偶者からのDV被害 女性3割

内閣府の「男女間における暴力に関する調査」によると、夫から身体的暴行や、精神的嫌がらせなどを受けるドメスティックバイオレンス(DV)被害を経験した女性は32.9%に上ることがわかった。被害女性の41.4%は誰にも相談していなかった。被害女性が夫と別れなかった理由では、「子どもがいるから」57.3%が最も高く、「経済的な不安があった」が18.9%で続いた。

警察庁のまとめによると、昨年1年間に全国の警察に寄せられたDVの相談件数は、前年比6.9%増の3万3745件。統計のある平成15年以降最多だった。

「行方不明」小中学生 全国で1千人超

学校が居場所をつかめず、1年以上も「行方不明」とされている小中学生は、平成23年5月1日時点で1191人(学校基本調査より)。平成22年度は326人だったので、昨年度は急増した。DVや夜逃げで住民票を移さない例が多いとみられるが、転居後に義務教育を受けていない子どもがいる可能性がある。

子ども・子育て白書 生涯未婚男性2割

平成24年版「子ども・子育て白書」によると、「50歳までに1度も結婚したことのない」人の割合(生涯未婚率)は、男性20.14%、女性10.61%といずれも過去最高だった。初めて男性が2割台を突破、女性も1割台に達した。また、内閣府の子育て支援策に関する調査では、子育ての不安要因として、「経済的負担の増加」が71.7%とトップだった。

女性障害者3割セクハラ被害

障害者問題に取り組む女性らの団体が昨年行った調査で、「障害者であり、女性であるため生きにくいと感じた経験」について87人に尋ねたところ、3分の1を超える人がセクシュアルハラスメントを挙げた。内閣府の作業部会は、関係者にヒアリングを行い、来年の障害者差別禁止法案に反映させる考え。

日本の幸福度 21位

経済協力開発機構が発表した、各国の生活の豊かさを示す「より良い暮らし指標」で、日本は36か国中21位と昨年の19位より順位を下げた。トップはオーストラリア。11項目を点数化し、日本は「安全」が1位、「教育」が2位と高い一方、「ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)」が34位と低い。週に50時間以上働く労働者が約3割に上ることなどが低評価の理由となった。

